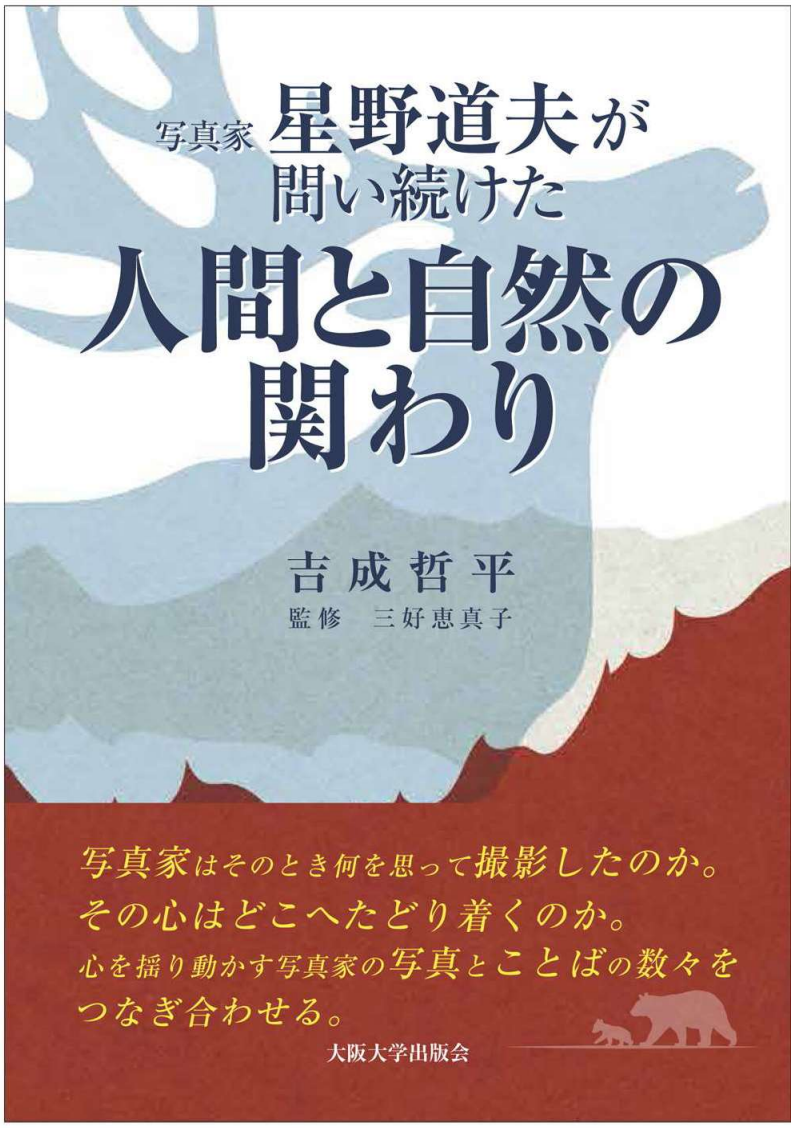
ランチトーク特別編

ブックトーク 01

風景との出会いの中で展開され続ける「写真実践」

写真家たちの眼を通じて捉えられた、ひとびとの暮らし



プレゼンター：
吉成哲平（大阪大学・博士後期課程）

コメンテーター：
冷　昕媛（大阪大学・博士後期課程）
陸口雄斗（大阪大学・学部4年）

2021年7月3日（土）14:00-16:00
使用アプリ：ZOOM
お申込み
https://forms.gle/RsMTnGA8LFFLN69x8

かつてアラスカを旅した写真家である星野道夫は、「どうして人間はここにいるのか、そしてどういう方向に行こうとしているのか」という根源的な問いをその心に抱きながら、人間と自然の関わりを見つめ続けました。そして、この私自身の研究の出発点でもある星野作品の分析を通じて、星野が約20年に渡る撮影活動の中で、やがて自らの生命と、野生生物から果ては氷河に至るまで、あらゆる存在を一つのものとして感じ取っていったことが見出されてきました。何よりここにはまた、21世紀という新しい時代を前に、急速に変化してゆくひとびとの暮らしの行方を共に見届けようとする姿がありました。

その一方で、同時に浮かび上がってきたのは、このように暮らしと向き合う中で、カメラ越しに複雑な葛藤を抱えつつ「問い」を深めてゆく姿が、星野とは異なる時代を生きた戦後写真家たちにも通底する側面です。例えば、「戦後写真の巨人」とも称される東松照明は、長崎での終わらない原爆被害への衝撃より、同地の被爆者を30年以上の時間をかけて撮り続け、また、それまで鉱山と都市との結びつきを考えてきた畠山直哉は、東日本大震災以後の故郷の復興を、割り切れぬ思いを抱えながら見つめ続けてゆくその姿がありました。

今回は、このように写真家たちが一人一人の生活者の営みを捉え続ける中で、その胸中を深めてゆくそれぞれの撮影活動の軌跡より、現在まで私が体系化を試みている「写真実践」という新たな方法論について、皆さまと共有させて頂きたいと思います。

未来共創センターではこれまでのランチトークの特別編として教員や学生が出版した本を紹介し、語り合う「ブックトーク」を開催します。専門的な書籍はどうしても難しいです。しかし著者、コメンテーター、そして参加者の皆さんが語り合えば、議論は解きほぐされ、だんだん「わかる」が増えていきます。その先には新しい景色が広がっているでしょう。第1回は吉成哲平さんの卒業論文をもとにした『写真家 星野道夫が問い続けた「人間と自然の関わり」』（大阪大学出版会）です。

大阪大学大学院人間科学研究科
附属 未来共創センター

お問い合わせ
mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp
06-6879-4050